

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に対して施設長が職員に対して話しているが、職員は、傾聴するだけで実際は個々の自己覚知に任せている。	法人の理念のもと、各職員がそれぞれの角度から真摯にとらえ、入居者が安心して暮らせるよう支援に繋げている。今後進めていく中で、職員間で話し合い、グループホームに即した理念作り等も考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の会合に自ら出向き地域の仲間入りをさせて頂いている。又回覧板を回して頂いて、地域交流を図っている。	管理者は、地域の一員となれるよう地域の活動に直接出向き、交流の機会を大切にしている。また高齢化している地域ニーズの力になれるようアドバイス等で貢献できるよう努めている。祭などを通して入居者が世代間交流ができる場所となるよう積極的に参加させてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合に出て、入居者様の様子や認知症の対応について話をさせていただいている。又回覧板の回してもらい、地域の方々と職員・入居者様の顔を知ってもらえる関係を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での様子を報告し、今何に対して困っている伝え、外部の地域代表の方や知見の方、地域包括の方々から貴重な意見を頂き、解決の道を切り開いている。	会議は定例化されているが、マンネリ化しないよう試行錯誤している。その例として家族会(日曜日)とドッキングしたことで、平日参加できない入居者家族と地域の参加メンバーとが交流できたことや、防災関係をテーマに知見者から参加してもらったことで防災体制が構築された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	こちらからの疑問点に対しては、的確にアドバイスを頂いている。しかし、施設個々の問題に対しては、事業所自身が考えなければならず、責任の重大を感じるのは常である。	行政担当者、包括支援センター職員とは入居者に関する相談や疑問点等、連携が密に図られている。特に包括支援センター職員とは、日頃から情報の交換や、連絡、相談がスムーズに図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については2時間の開錠を行っている。家族や地域の方々からも心配の意見もあったが、職員が、見守りができる場合のみに限って開錠を行っている。	現在、入居者に不穏行動もなく安定している。玄関の開錠は時間を決めて、職員の手薄になる時間帯を避け実施しているが、今後は時間の延長等も検討している。更に職員間で身体拘束をしないことの重要性について学んでいく予定である。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について講習の参加を促し学ぶ機会を作り、改めて気づきを感じ取ってもらっている。又常のケアから言葉遣いに注意を払い変だと思ふところは互いに声を掛け合っていくようにしている。	管理者は、職員がホール等で入居者と話している中で不適切な言葉使い等あった場合は、その場で注意喚起し、自ら気付けるよう促している。今後、継続した勉強会や研修会への参加の必要性を感じておりそうした機会を継続して設けようとしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については講習会で学ぶ機会を設けているが、成年後見人制度については入居者様の中で該当する方が居られないため、活用支援は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を行っている。納得については、不安に思っていることや疑問点を尋ね、声をかけやすい雰囲気づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様ご家族様には訪問時やメール等で声をかけ、意見を聞かせて頂いている。又、運営推進会議にも入居者様のご家族様からの意見等を報告している。	入居者、家族からのアンケート、要望については、職員間で共有し前向きに捉えるよう努力しているが、早急な対応ができずにいるのが現状である。	入居者、家族からの要望である、「職員の顔と名前が一致するよう、顔写真の張り出し」について、早急に職員間で協議する等、工夫対応が期待される。また、今後は利用者、家族の要望で取り組んでいる案件等は運営推進会議で定期的に経過報告されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時に職員に対して施設長より些細なことでも良いので意見を出して欲しいと言われているため、職員は思ったことを伝えている。	職員個々の意見を尊重するが故に、意思統一に時間がかかり意見の反映に結びつけることに苦慮している様子が窺えるが、決定した方針等に全職員が取り組めるよう雰囲気作りに力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1ユニットの経営の中で利益の中から職員の給料を出すのが精一杯と常に代表者は伝える、管理者も職員も精一杯行っているが、給与水準に対しては国の定めた報酬の限界があるのかもしれない。やりがいに対してはあっても体力的に無理が生じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員育成に対して学びに対する理解を示している。しかし、教育資金や時間に関しては各自の負担も多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業補助金制度を使って地域の施設職員と合同で研修を開催している。又、地域で行われる勉強会にも参加している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係の構築が出来るように常に努め、気軽に話して頂くようにじっくり話を聞く。この人なら大丈夫と提供していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を傾聴し、敬意を忘れず、家族等が困っていることに対してしっかり受け止める関係づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族は何に対して支援を求めているか、見極めできる支援、できない支援を明確にして行き、できない支援に対してどのように検討していくか話を進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様も職員も馴染み関係になっている、しかしその中で入居者様に対して尊重するという事を忘れがちな場面が時々見受けられる。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に負担をかけないようにしていた行為が、ご家族様にとって疎遠にさせてしまったり、寂しい思いをさせてるような出来事が見受けられる。	事業所は、本人が納得しないまま入居された時に不穏行動が続いた時でも、家族から情報を得ながら入居者の言動を見逃さず、家族との絆に繋げられるよう支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が行っていた所や場所に希望が叶うようにお連れして笑顔が見えて気持ちに変化を大切にしている。	こだわりの美容院へ送迎を受けて出向いている人や、入居前から交流の深い親戚、民生委員等から訪問を受けたり、電話や手紙で交流を継続できるよう必要に応じて職員が支援している。面会時、ゆっくり寛げるよう玄関、ロビー各所に長椅子を置く等、環境作りにも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士お互いに協力していただけるように職員が仲介し、助けられている。助けているという気持ちを入居者様が感じられるような支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、伝えるようにしている。又情報に関して、より良い生活ができるように外部に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に話をじっくり聴き、ご本人の気持ちを尊重する。ご家族様にも現状を伝え、ご家族と職員と一緒に考えご本人の安心できる環境にしていく。	日々の状況や表情を確認して、ご本人の話を傾聴することで思いや意向を汲み取り、気付きを申し送り用紙に記録している。伝えられない場合はケースを分析し意向を推察しながら家族からも聞き取り、本人の視点で検討している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今現在の生活スタイルで良いのか、本人にとって居心地は？不安定な時はカンファレンス、申し送り時に話を行い、より良い生活を常に考えていく。	利用開始前に入居者、家族と面談を行い、本人が安心できる環境で生活出来るよう丹念に情報収集するようにしている。入居後も生活歴や習慣、楽しみごとや得意なことなどの話を聞いて把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の状態を全体的に把握して考え、認知症の緩和に務め、ADL低下を予防を行えるように常に考えている。出来る事に関しては、ご本人様の力を引き出せるように支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の話を聞き、カンファレンス時や申し送りの時に皆の意見を聞き、ケア計画を作成している。	本人、家族、関係者からの話を基に介護計画を作成している。又カンファレンスには多くの職員が参加して意見を出し合い統一した介護、現状に即した介護計画の作成に努めている。モニタリングの実施、必要に応じてプランの見直しも実施している。	居室担当の職員を中心に、気付きや変化を気軽に記入できる記録方式の構築が望まれる。また、日々の生活の中での記録が、利用者、家族の思いや要望がプランに反映されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中からご本人様や職員の声を聞き、情報を取り入れて介護計画を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のニーズに対して、支援としてできることに対しては、周りの協力を常に求め、実行していく。できることの継続に務め、ご家族様の要望も取り入れる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア通信や、地域広報誌他を見て、入居者様おひとり一人が興味のある行事等に参加できるように地域の商工会議所や地域包括他の施設職員情報を得て支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を勧めているが、ご家族の都合により施設の往診医になることも多い。定期的な受診往診はもちろんだが、緊急にも対応している。	本人、家族の希望するかかりつけ医を尊重している。受診については家族対応が基本であるが、緊急時は職員が代行している。かかりつけ医との連携は上手く行っており、必要に応じて往診してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないため、職員が直接医師やご家族様に報告、相談、連絡を取り、個々の利用者様に対して、健康管理や医療支援につなげられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関から情報を求められたとき、情報提供を行い、スムーズに介護が行くように情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアは行っていないが、ご本人様、ご家族様がここでと言う気持ちがある方に対しては、必要に応じて説明納得していただけるなら精神誠意努めさせている。	利用者の状態に変化があった場合、その都度、本人、家族の意向を確認し、利用者の状況に応じた支援が行われている。今後でもできる限りの対応をしたいと考えており、終末期のケアの対応も積極的に考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の緊急対応に対しては定期的に訓練や勉強会、マニュアル読みを行い行動出来る体制をとっている。	事故発生時の対応マニュアルを作成し、全職員に配布している。消防署指導のもと、AEDの使用方法、応急手当、初期対応の研修に参加するなど、実践に繋がれるよう努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応は運営推進会議等においてお願いして連絡網や緊急マニュアルなどを作り、体制を整えている。	事業所内では、定期的に避難訓練は実施されている。地域の避難訓練にも参加し地域との協力体制を整えている。全職員で避難方法を身につけられるよう努めており、災害時の備蓄品等も整っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の生活の中で忘れがちな点や気づいた時に職員間で伝えるように言っている。職員の行動は自分の手鏡、対応に気づかされている毎日で自問自答です。	居室の訪室時の声かけ、排泄時の声かけ等は他の入居者に気付かれないようさりげない配慮を心掛けている。一人ひとりの性格や癖など把握し全職員間で情報を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「忙しいのにすみません」という言葉が入居者様から返ってくると私達職員は入居者様が気を使っていると感じます。入居者様の希望や願いが感じ取れるように常に注意深く状態観察を行っていけるように努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で、一人一人のペースを合わせることができるところは希望に沿うように支援をしている。健康上、家族の要望を踏まえて、ご本人様の納得していただいて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の要望にこたえられるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じおかずでも形によって食べられなかったり、食べられることもあり、調理に対して一人一人に合わせて食事を提供している。	食事作りや盛り付け、配膳下膳、後片付け等は入居者と一緒に行い、一人ひとりの出来る事や能力を引き出すようにしている。食事は職員と楽しい雰囲気の中で提供されている。又、残す方には声かけや形を変えたりと創意工夫をすることで楽しめる支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量に対しては、一日を通して職員全員が一覧できるように把握し、足りてない状態であれば声かけや工夫したり、時間を置いて摂取してもらるように支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りを行い、口腔ケアに対する大切さと理解をしていただけるように、支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のできるところに注目してその部分は継続して行けるように支援を行い、できない所だけさりげなく支援をさせて頂いている。	必要な入居者にはチェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握したうえで、排泄の自立に向けた支援を行っている。入居者のトイレはゆったりした空間で設備も整っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示のもとで排便コントロールを行い、介護職員同士の連携や申し送りを行い、状態に合わせて行っている。又お通じの良いおやつや水分補給、食事内容、軽い運動、入浴等、改善を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望に沿うように、日々努力しているが、職員体制が厳しい状態では日によって個々に沿った支援をできないこともある。	週2回の入浴であるが、本人の希望に添った楽しい入浴ができるように努めている。浴室内は明るく、補助具も整い、安全にゆったりとした入浴が出来るように配慮されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をしてもらったり、夜眠れなく、お起きていても、ご本人様の状態にあわせて生活して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用に対して薬剤師に情報提供いただき、異変時には医師に情報提供を行い、指示を頂いている。又、職員も提供している薬に対して、注意深く様子観察を行い変化のある場合、伝達して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に日常生活でできるところは継続して行けるように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方が行きたいといわれるところは職員体制が可能であれば出来る限り出かけるようにしている。又、地域の協力もあり、お祭りにも参加してもらっている。ご家族様の協力は日を決めてもご本人様の体調面で困難な状況にある。	一人ひとりの希望に合わせて職員が同行し外出を支援している。地域のお祭り、お花見、風合戦など季節の楽しみも定期的に行われている。家族の協力を得て外出、外泊される方もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に対しては、ご本人様の希望がある方に関しては、ご家族様の負担のない金額で所持して頂いている。ご本人様とご家族様に任せている中で、職員も見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が自ら電話をされる事に対して支援を行っている。又、ご家族様の協力が得る方に関しては、時々電話を掛けて来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、共用空間は不便を感じないよう、照明、風通し、温度管理を行っている。	季節の飾り付けを入居者と作るなど、居心地良い空間作りがなされている。共有空間は明るく、気になる臭いも感じられない。食堂には厨房があり利用者と共に調理をしたり、様子を見たり匂いや音を感じたりと生活感が感じられ、快適に過ごせる環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事務所が安心して出来る空間がある。そこに居るのは、違う職員が居ても、そこにいけば居心地良くなるような居場所づくりになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを持ってきたり、お気に入りの物に壁に貼ったりして過ごされている。	馴染みの物の持ち込みは自由であり、心地よく安心して生活出来るよう室内はフローリングでバリアフリーである。入居者の安全に工夫がなされている。また、入居者の中には仏壇や馴染みの筆筒等を持って来ている方もおり、過ごしやすい居室への配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備に心がけ、ひとり一人が暮らしやすいように、個々のこだわりを尊重した生活スタイルを心がけている。		